２　11月の見通し

野　菜

曇天・長雨の影響が色濃く出ており、出荷量は平年を下回り、不安定な出荷となる品目・産地が多い見通し。ほ場の冠水によりまき直し等を強いられた産地も多く、生育に遅れが目立ち、露地野菜の主要産地では年内のうちに平年並の出荷量まで回復するのは厳しい見込み。

夏秋野菜については気温の低下が昨年より早く、それに伴い切り上がりが早まる見通しとなっている。そのため、後段の秋冬産地の遅れが顕著な品目では端境が生じる可能性がある。

野菜全体では、入荷量は平年をやや下回り、単価は高値となった前年をやや上回り、平年と比較すると大幅に上回る見通し。

果　実

11月は主力品目にあたる「みかん類」「りんご類」「かき類」「いちご類」の出荷が順次本格化し、入荷量が増加していく。

「みかん類」は９月の降雨で肥大が回復し、着色、肥大も良好であるが、裏年の産地も多く入荷量は少ない見込み。「りんご類」は各産地大玉傾向につき前年を上回る入荷量となる見込み。

「かき類」は「平核無」から「富有」へ販売の中心が移る一方、「次郎」はカメムシ被害や整理落果等により入荷量及び品質への影響が懸念される。「いちご類」は中下旬にかけて各産地出揃い、入荷量が増えていく見込み。

果実全体では入荷量は前年をやや下回り、単価は前年並となる見通し。

品　目	入荷量(t)		単価(円/kg)		備　考 （主産地の生育状況等）
	前年比	平年比	前年比	平年比	
だいこん	⇊	⇊	⇑	⇑	主産地は千葉県、神奈川県。関東産が中心となっていくが、千葉県、神奈川県ともに9月の長雨で は種ができておらず株数少なく、肥大も進んでいないことから前年・平年ともに大幅に下回る入荷量の見込み。そのため、中旬以降、青森県産が切り上がると相場も高騰する見込み。
にんじん	↘↘	⇊	⇊	⇑	主産地は千葉県、北海道。北海道産は残量多い産地が一部後ろ倒しとなるが、系統産地からの入荷は上旬にほぼ終了する。千葉県産は台風等の被害により量が見込めず、下旬に九州産の入荷が始まるまでは品薄となる見通し。 予想入荷量は少なかった前年をかなり下回り、平年を大幅に下回る見込み。
キャベツ類	↘↘	↘↘	⇑	⇑	主産地は千葉県、愛知県、茨城県。各産地9月の長雨の影響を最も受けた時期にあたるため、病害や根傷み等が発生し、被害が少なかったほ場も日照不足から小玉傾向となっており、数量がまとまらない見込み。 予想入荷量は少なかった前年・平年ともにかなり下回る見込み。
ねぎ	⇒	↘	↘↘	↗	主産地は秋田県、青森県、茨城県。北海道・東北といった夏秋産地は第2週から第3週がピークとなり、下旬には切り上がりとなる。後続の関東産は日照不足に伴う生育不良で出遅れ、細身傾向から箱数も少ない見込み。 予想入荷量は前年並で平年をやや下回る見込み。
きゅうり	↘	⇊	↘↘	⇑	主産地は宮崎県、埼玉県、群馬県。上旬は西南暖地産との端境に入るものの、その後は順調な出方となる見通し。関東産は日照不足等から数量が伸びないものの、西南暖地産は順調な入荷となる見込み。 予想入荷量は少なかった前年をやや下回り、平年を大幅に下回る見込み。
トマト	⇑	⇊	⇊	⇒	主産地は熊本県、愛知県。上旬に夏秋産地が終了し、後続産地が熊本県を除き着果不良の段の収穫となることから数量は減少。中旬以降は各産地安定するため入荷量は増加となる見通し。熊本県をはじめ、西南暖地の作柄は良好。 予想入荷量は少なかった前年を大幅に上回るものの、平年を大幅に下回る見込み。
			増加	減少	

凡例			
⇒	平年並：±2%	↗↗, ↘↘	かなり高，かなり低：±6～15%
↗, ↘	やや高，やや低：±3～5%	⇑, ⇊	大幅高，大幅低：±16%以上